

深刻化する水災害

右面からつづく

コーディネーター 今井さん、森の活用についてはいかがですか。
今井 私はやっぱ森の力というのはいさぎ悪いなと思っていて、雨が降った時にそれを土の中のためにためてくれ、水がめだまになってくれる。一方で、洪水の時にはそれが徐々に周りのため池とかに入っていく、それで潤すことができる。

大使 日本とバングラデシュは似たところがあると思います。でも、これらの大きな影響を吸収できる能力、対処能力、日本とバングラデシュの国民の間にも大きな違いがあると思います。バングラデシュ、モルディブ、この2カ国が温暖化でいちばん悪い影響を及ぼされます。ですから、先進国が地球温暖化の原因もつづけているわけですから、原因を調べて、そして必要な調整を行い、対処をしようという必要があると思います。

虫明 各国が連携するにはそれぞれの国の事情、特徴と、これまでの発展の段階を考慮する必要があると思うんです。日本が特殊だというのは、かなり先端的に進んでいるわけですが、その前の段階というの、江戸時代あたりからあるわけです。そういうことも、国際協力を考える場合には知っていなければならぬというわけです。



コーディネーター 竹村さん、水問題というのは、さまざま分野に関係します。その国のトップの人が判断して、その前の段階というの、江戸時代あたりからあるわけです。そういうことも、国際協力を考える場合には知っていなければならぬというわけです。

虫明功臣氏



むしあけ・かつみ 福島大学共生システム理工学類教授。自然界における水循環を研究する水文学が専門で、水環境と生態系の破壊が起こす問題のメカニズムを解明し、改善する技術の研究。アジア太平洋水文水資源協会事務局長、世界水会議理事など。

山、平野とも、十分な気温と水があるところでは土地生産性が高いので、古くから生産・生活の場として開発され、世界的に見ても人口密集地帯となっている半面、いずれも水災害危険地帯でもあるという事です。それに日本を除くこの地域のほとんどで

山、平野とも、十分な気温と水があるところでは土地生産性が高いので、古くから生産・生活の場として開発され、世界的に見ても人口密集地帯となっている半面、いずれも水災害危険地帯でもあるという事です。それに日本を除くこの地域のほとんどで

今井義典氏 コーディネーター



いまい・よしのり NHK解説主幹。NHK入局

断をしていくことが重要な問題を解決していくことにつながるとしています。
コーディネーター 最後に地球温暖化という大きな脅威に立ち向かって、水害を減らしていく、キーワードを書いていたとき、締めくくりにしたいと思います。

竹村 21世紀の防災は、知識を共有すること。それは、行政と国民の連携なんだと。何を問題として、何を不安に思っているのか。行政が受け止めて、会話をしながら連携していきたい。

大使 竹村さん、今井 日本は先進国で2番目に森林の多い国ですが、森林化社会を目指そうと言っています。気象は凶暴化してきています。森林は冷房効果があるんですよ。森林がたかさんあると、その国はあまり温暖化しない。森林は葉っぱの部分で、大気汚染物質の一部を吸収してくれ、また一部は吸着してくれます。根の部分で水をためてくれます。具

深刻さをもっと理解を 森林の機能 世界に

虫明氏 今井通子氏
けでは、洪水の増大への適応策にはなりません。新たな枠組みが必要です。
やはり、河川の中だけに増大する洪水を閉じ込めるのは現実的に無理なので、流域として被害を最小にするという考えのもとに、流域の治水へ拡大するという転換が必要です。人の命を守ることを基本として想定される浸水区域を整備するとともに、そこで浸水被害が起こる場合にはそれによって救われる下流の都市側が感謝の気持ちの表れとして相応の補償などを要するソフト施策を整えることが必要です。こうした流域の治水、江戸時代の治水策を現代版に焼き直してやるというのが、アジアも含めた治水の基本であると考えています。

今井通子氏



アジア・太平洋地域で初めての水サミット「第1回アジア・太平洋水サミット」は、12月3、4日、大分県別府市で開催される。水問題は多様でありながら、共通する課題も多く、地域レベルでの取り組みが解決の鍵を握っており、国家レベルでの対応が求められている。アジア・太平洋諸国の首脳、産・官・学・市民団体・メディア等のリーダーが参加する。全体テーマとしては「水の安全保障...リーダーシップと責任」、分科会では「水インフラと人材育成」「水関連水害管理」「発展と生態系

水災害～アジア・太平洋地域の中の日本

基調講演
アジア・太平洋地域の河川がどのような特徴を持っているかを見つめて対応策を考えたいと思います。水循環の特徴を考えると、環境・気象条件、それに地形・地質条件(地文)が重要です。アジアモンスーン気候はバラエティーに富んでいますが、特に水災害では多雨地帯が重要で、さらにその気候条件よりもさらに重要なのが地形・地質条件です。アジア・太平洋地域は広い範囲で地震・火山活動を伴うアルプス・ヒマラヤ造山運動と環太平洋造山運動の影響を受けていま

うした山地から洪水で運ばれた土砂によってできた沖積平野が主体です。これは本来洪水はほんのんの危険性をもった土地です。沖積平野では、古くから水田稲作を中心とする農業が営まれ、集落、都市、大都市が立地しています。つまり、アジア・太平洋地域の

流域単位の治水へ
続いている急激な人口増加と産業活動の拡大・発展が、気候変動の影響なくとも水問題を深刻にしていることを認識しておくべきだと思います。水害による世界の死者数の8割以上がアジア・太平洋地域に集中しているというの、深刻性を示すものです。

ク流量は3割ほど大きくなつて、20～40年に1回の安全度以下がっしてしまいます。これにどのように対応するか。治水施設の整備を優先度を決めながら推進すると同時に、ソフト対策としても、非常時の防災、減災体制を強化すること、はもちろんです。それだ

く流量は3割ほど大きくなつて、20～40年に1回の安全度以下がっしてしまいます。これにどのように対応するか。治水施設の整備を優先度を決めながら推進すると同時に、ソフト対策としても、非常時の防災、減災体制を強化すること、はもちろんです。それだ

アジア初の水サミット

アジア・太平洋地域で初めての水サミット「第1回アジア・太平洋水サミット」は、12月3、4日、大分県別府市で開催される。水問題は多様でありながら、共通する課題も多く、地域レベルでの取り組みが解決の鍵を握っており、国家レベルでの対応が求められている。アジア・太平洋諸国の首脳、産・官・学・市民団体・メディア等のリーダーが参加する。全体テーマとしては「水の安全保障...リーダーシップと責任」、分科会では「水インフラと人材育成」「水関連水害管理」「発展と生態系

く流量は3割ほど大きくなつて、20～40年に1回の安全度以下がっしてしまいます。これにどのように対応するか。治水施設の整備を優先度を決めながら推進すると同時に、ソフト対策としても、非常時の防災、減災体制を強化すること、はもちろんです。それだ

く流量は3割ほど大きくなつて、20～40年に1回の安全度以下がっしてしまいます。これにどのように対応するか。治水施設の整備を優先度を決めながら推進すると同時に、ソフト対策としても、非常時の防災、減災体制を強化すること、はもちろんです。それだ

く流量は3割ほど大きくなつて、20～40年に1回の安全度以下がっしてしまいます。これにどのように対応するか。治水施設の整備を優先度を決めながら推進すると同時に、ソフト対策としても、非常時の防災、減災体制を強化すること、はもちろんです。それだ

く流量は3割ほど大きくなつて、20～40年に1回の安全度以下がっしてしまいます。これにどのように対応するか。治水施設の整備を優先度を決めながら推進すると同時に、ソフト対策としても、非常時の防災、減災体制を強化すること、はもちろんです。それだ

く流量は3割ほど大きくなつて、20～40年に1回の安全度以下がっしてしまいます。これにどのように対応するか。治水施設の整備を優先度を決めながら推進すると同時に、ソフト対策としても、非常時の防災、減災体制を強化すること、はもちろんです。それだ

く流量は3割ほど大きくなつて、20～40年に1回の安全度以下がっしてしまいます。これにどのように対応するか。治水施設の整備を優先度を決めながら推進すると同時に、ソフト対策としても、非常時の防災、減災体制を強化すること、はもちろんです。それだ

各国首脳、有識者が討議